

環境活動レポート

2018年度

2018年4月—2019年3月

ご挨拶

建築の産業廃棄物の収集運搬、中間処理施設と民間業者では初めて札幌市より許可を取得して以来、リサイクルシステムに微力ながらも貢献すべく努力して参りました。今後も引き続き、『地球環境に貢献する建設現場のサポーター』を合言葉に全社一丸となり積極的に取り組んでいく所存であります。

エコライン株式会社

〒003 - 0869 北海道札幌市白石区川下 641 - 170

TEL 011 - 874 - 0570 FAX 011 - 873 - 2046

E-mail [info@ecoline - kk.co.jp](mailto:info@ecoline-kk.co.jp)

URL [http://www.ecoline - kk.co.jp/](http://www.ecoline-kk.co.jp/)

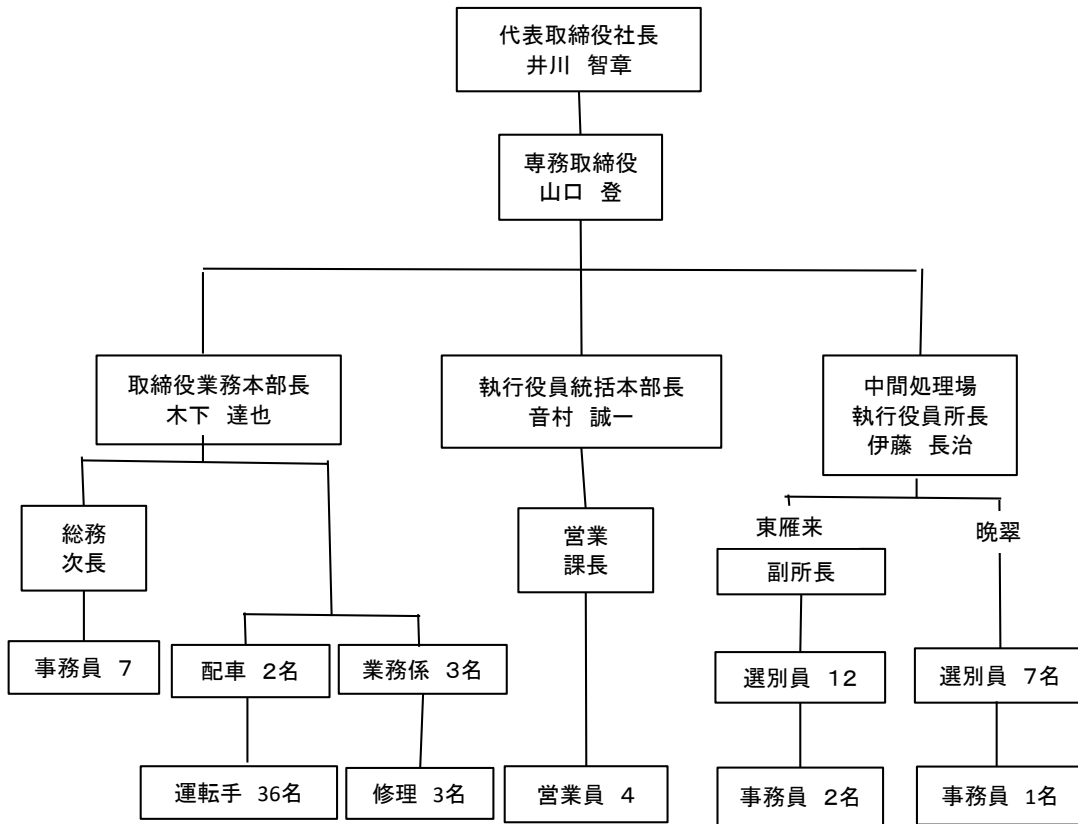
発行日：2019年5月10日

会社概要	2・3・4・5・6
	別紙1・・・13
	別紙2・・・14
1. HES:産業廃棄物処理業者システム規格認証登録内容	7
2. 環境改善活動の取り組み体制	7
3. 環境に関する基本方針	8
4. 環境目標と実績	9
5. 環境改善活動の評価	10
6. 法的及び組織が同意するその他の要求事項	11
7. 2018年度活動の最高責任者の評価と今後の課題	11・12
8. 別紙1	13
9. 別紙2	14

■ 会 社 概 要

- 会 社 名 : エコライン株式会社
- 所 在 地 : (本社) 北海道札幌市白石区川下641-170
(東雁来リサイクルセンター) 札幌市東区東雁来262番地132
(晩翠リサイクルセンター) 空知郡南幌町南10線西14番地
- 代 表 者 氏 名 : 代表取締役社長 井川 智章
- 事 業 内 容 : 一般貨物輸送・産業廃棄物の収集運搬及びリサイクル並びに中間処理
- 設 立 : 昭和50年10月24日
- 資 本 金 : 60,500,000円
- 売 上 高 : 1,135,007,000円
- 従 業 員 数 : 87名 (パート社員 1名含む)
- 敷 地 面 積 : 本社 15,849.62㎡
東雁来リサイクルセンター 18,604.00㎡
晩翠リサイクルセンター 16,536.20㎡
- 延 床 面 積 : 本社 486.00㎡
東雁来リサイクルセンター 1,351.00㎡
晩翠リサイクルセンター 3,070.93㎡
- 沿 革 :
 - 昭和42年 山本 禎男が個人で運送業を開始。
 - 昭和50年10月 運送免許を取得し株式会社に改組。札幌市白石区北郷より白石区川下に本社を移転。
 - 平成12年3月 湯佐英司が社長に就任し北興グループの一員となる。
 - 平成18年3月 山本山運輸(株)、小林運輸(株)が合併し社名をエコライン(株)とし新たなスタートを切る。
 - 平成19年7月 中老田正信が社長に就任する。
 - 平成19年8月 松下運輸(株)より事業譲渡を受け新生エコライン(株)がスタートする。
 - 平成21年6月 建設系産業廃棄物の一般受入開始。
 - 平成26年5月 井川 智章が社長に就任する。
 - 平成28年12月 空知郡南幌町に晩翠リサイクルセンターオープン。

エコライン(株)業務機構図



(1) 事業規模

① 収集運搬業

- ・ 運搬車両の種類と台数：43台（ユニック車30台、パッカー車6台、その他7台）
- ・ 積替保管施設の有無と面積及び保管上限量：有 空知郡南幌町字幌向原野1013番13、面積 34.17㎡、保管上限103.6ρ
- ・ 種類（産業廃棄物）

北海道	燃え殻・泥炭・廃油・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・ゴムくず・金属くず・ガラス・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類・ばいじん・廃酸・廃アルカリ
-----	---

- ・ 種類（特別管理産業廃棄物）

北海道	廃油・廃酸・廃アルカリ・特別有害産業廃棄物（廃石綿等）
-----	-----------------------------

② 処分業

○東雁来リサイクルセンター

- ・処理施設の種類：選別、圧縮～廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物であるものを除く）
- ・処理する産廃の種類：一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物であるものを除く下記の産業廃棄物（工作物の新築、改築、又は除去に伴って生じたものに限る。）

圧縮	廃プラスチック類（石綿含有産業廃棄物であるものを除く）
選別	廃油（アスファルト防水材に限る）・廃プラスチック類・紙くず・木くず・繊維くず・金属くず・ガラスくず・コンクリートくず・陶磁器くず・がれき類・石膏ボード

- ・処理能力：選別 80 t/日、圧縮 3.36 t/日
- ・処理方式：中間処理
- ・処理工程図（別紙 1）受入⇒手選別⇒搬出先（焼却、破碎、埋め立て）

○晩翠リサイクルセンター

- ・処理施設の種類：破碎、圧縮

圧縮	廃プラスチック類、紙くず
破碎	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず、がれき類

- ・処理能力：圧縮 10.9 t/日
 破碎 廃プラスチック類・42.2 t/日、紙くず・72.3 t/日、木くず・99.4 t/日、繊維くず・21.7 t/日、金属くず・68.1 t/日、ガラスくず、コンクリートくず及び陶磁器くず・180.7 t/日、がれき類・184.5 t/日
 木くず（チップ）・76.0 t/日
- ・処理方式：中間処理
- ・処理工程図（別紙 2）受入⇒前処理⇒破碎⇒焼却、埋立、売却

（2）処理実績

産業廃棄物取扱量 （中間処理）	2016 年度		2017 年度		2018 年度	
	処分実績 単位（t）	割合 （%）	処分実績 単位（t）	割合 （%）	処分実績 単位（t）	割合 （%）
木くず	1889	8	4179	17	5739	19
紙類	351	1	370	1	393	1
金属くず	2515	11	2521	10	2670	9
がれき類	3016	13	2337	9	3826	13

ガラス、コンクリートくず及び陶磁器くず	1467	6	1689	7	1766	6
石膏ボード	1500	6	1180	5	1402	5
廃プラスチック	3568	15	4069	16	4136	14
その他	168	1	416	2	2922	10
残さ	9056	39	8218	33	7099	23
年間中間処理量 (t)	23530	100	24979	100	29953	100
収集運搬 (当社中間処理)	2016 年度		2017 年度		2018 年度	
	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)		運搬実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	1197	8	2352	16	3955	18
紙類	227	1	233	2	296	2
金属くず	1597	10	1510	11	1960	9
がれき類	1872	14	1351	9	2843	13
ガラス、コンクリートくず及び陶磁器くず	7044	44	5579	39	6162	28
石膏ボード	1002	9	711	5	1000	5
廃プラスチック	2576	14	2350	17	2903	13
繊維くず	12	0	12	0	0	0
廃油	131	0	78	1	62	0
その他	15658	100	14176	100	2641	12
収集運搬 (当社中間処理) 計	15658	100	14176	100	21822	100

収集運搬 (運搬のみ) (t)	2016 年度		2017 年度		2018 年度	
	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)	運搬実績 単位 (t)	割合 (%)
木くず	622	14	694	14	843	22
紙類	26	1	40	1	4	0
金属くず	13	0	4	0	2	0
がれき類	1873	41	725	41	2520	66
石膏ボード	109	2	38	2	1	0

廃プラスチック	94	2	56	2	139	4
ガラス陶磁器	96	1	30	1	19	0
繊維くず	0	0	0	0	0	0
廃油	0	0	42	0	25	1
汚泥	1750	7	44	7	227	6
その他	10	1	121	1	33	1
収集運搬（運搬のみ産廃）計（t）	4593	100	1677	100	3813	100
特別管理産業廃棄物（廃石綿）	12	0	17	0	1	0
収集運搬（運搬のみ）計（t）	4605	100	1694	100	3814	100

収集運搬（運搬のみ）（m ³ ）	2016年度		2017年度		2018年度	
廃プラスチック	155	87	317	87	4	10
廃油	3	2	9	2	19	47
廃アルカリ	0	0	0	0	0	0
がれき類	2	1	0	1	0	0
ガラス陶磁器くず	10	6	0	6	17	43
その他	9	4	0	4	0	0
収集運搬（運搬のみ）計（ρ）	179	100	326	100	40	100

（3）廃棄物の処理料金

- ・ 運搬距離、廃棄物内容、回収形態等により、都度見積を行う。

（4）許認可一覧

許可証	内容	有効期限	自治体名
一般区域貨物自動車運送事業：札幌自第 2329 号 許可年月日：昭和 50 年 10 月 9 日	貨物輸送		陸運局
産業廃棄物収集運搬業許可番号：第 00110018732 号 許可年月日：平成元年 11 月 14 日	・収集運搬	平成 35 年 2 月 24 日	北海道
特別管理廃棄物収集運搬業許可番号：第 00150018732 号 許可年月日：平成 23 年 3 月 4 日	・収集運搬	平成 35 年 3 月 3 日	北海道
産業廃棄物処分許可番号：第 05120018732 号 許可年月日：昭和 51 年 4 月 28 日	・選別 ・圧縮	平成 35 年 3 月 7 日	札幌市

3. 環境に関する基本方針

<基本理念>

エコライン株式会社は、事業運営と地球環境の保全を両立し、住み良い北海道の地域社会を実現するために、全組織を挙げて環境改善活動に取り組めます。

<方 針>

エコライン株式会社は、産業廃棄物収集運搬及びリサイクル並びに中間処理等、及びそれに関するサービスの提供により発生する環境影響を低減するために、次の方針に基づき、環境改善活動を推進します。

1. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境への影響を常に意識し、全事業所において環境マネジメントシステムを継続的に改善し、汚染の予防にも努めます。
2. 環境に関する法的及び当社が同意するその他の要求事項を順守します。
3. 当社の活動、製品及びサービスが関わる環境影響要因のうち、以下の項目を環境改善活動の重点テーマとして取り組みます。
 - (1) 二酸化炭素排出量の削減（電気使用量、車両燃料の削減）
 - (2) 水資源の保全（一般水道水の使用量の削減）
 - (3) 循環型社会への対応（産業廃棄物のリサイクル率の向上）
 - (4) グリーン購入の推進
4. この環境に関する基本方針は、全従業員が理解し、行動できるよう周知徹底するとともに、社外にも公表します。
5. 地域密着型の環境保全活動に積極的に参画します。

この環境に関する基本方針を達成するために、環境目的・目標を設定し、当社の全従業員をあげて環境改善活動を展開するとともに、定期的に見直しを実施します。

2013年5月10日改定

エコライン株式会社

代表取締役社長 井川 智章

4. 環境目標と実績 (2018年度) 2018/4~2019/3

環境改善活動	具体的施策	目標値	実績値	評価
電気使用量の削減 2019年度まで基準年度 2016年度比1%の削減	・冷暖房温度の設定 ・休憩時間の消灯 ・不要電源 OFF の励行	237,648 kWh/年	208,742 kWh/年	A
水の使用量の削減 2019年度まで基準年度 2016年度比1%の削減	・車両洗車時の適正使用 ・節水パーツの利用	867 m ³ /年	657 m ³ /年	A
廃棄物排出量の削減 産業廃棄物リサイクル率 の向上 2019年度までに32% (含 む輸出) にする 基準年度数値 (2016年度29.0%)	・分別の徹底 ・廃プラ処分内訳見直し	31.0%/年	40.0%/年	A
グリーン購入 低廃出ガス認定かつ燃費基 準達成車への入替促進 2019年度まで目標2台	・トラック2台	2台/年	3台/年	A

※取組スタートは2011/6月

※評価基準 A: 達成率100%以上
B: 達成率 90%~100%未満
C: 達成率 90%未満

追加環境目標と実績 (2016年度) 2018/4~2019/3

環境改善活動	具体的施策	目標値	実績値	評価
軽油使用量の削減 走行1km当たりの使用量を2019年度 までに2016年度比1.5%削減する (基準年度2016年度) 0.34ℓ/1km)	・アイドリング ストップ ・配車高効率確保	0.336ℓ/ km	0.345ℓ/ km	B
ガソリン使用量の削減 営業収入百万円あたりの使用量を2019 年度比1.5%削減する (基準年度2016年度11.75ℓ/1百万円)	・アイドリング ストップ ・効率的営業の展開	11.63ℓ/ 百万円	10.15ℓ/ 百万円	A

中期環境目標（2017～2019年度）

項目	基準年度 2016年度	環境目標			環境目的
		2017年度	2018年度	2019年度	
省エネルギー	消費電力 241,018kwh/年	240,048 kwh/年	237,648 kwh/年	235,272 kwh/年	2019年度までに、 新施設の影響を 加味した使用量 から1%/年削減 する。
省資源	水の使用量 882ℓ/年	875ℓ/年	867ℓ/年	859ℓ/年	2019年度まで、新 施設の影響を加 味した使用量か ら1%/年削減す る。
産業廃棄物の 排出	リサイクル率 年29.0%	30.0%/年	31.0%/年	32.0%/年	2019年度までに 32.0%/年に引上 げ
グリーン購入	排ガス規制車の 導入	トラック 2台	トラック 2台	トラック 2台	2019年度までに トラック6台購 入する。
省エネルギー	1kmあたりの 軽油の使用量 0.34ℓ/1km	0.338ℓ/1km	0.336ℓ/1km	0.334ℓ/1km	2019年度ま でに▲1.5%削減 する。
省エネルギー	売上百万円あたりの ガソリンの使用量 11.75ℓ/百万円	11.69ℓ/百万円	11.63ℓ/百万円	11.57ℓ/百万円	2019年度までに ▲1.5%削減す る。

5. 環境改善活動の評価及び次年度の取組み

【電気使用量の削減】

○今年度はシステムの更新で後半から新旧システムの並行稼働もあり、若干電気使用量の増加要因はあったものの、日常の休憩時間の消灯・省エネ機器への移行等の細やかな取り組みが定着しており計画は達成。

平成30年度は8月から晩翠リサイクルセンターの稼働率を向上させたが、電気使用量の増加は計画の範囲内となっている。

2019年度も事業規模の拡大の中で環境改善に一層の努力を続けていく。

【水の使用量の削減】

○稼働車両数減もあり水の使用量は削減出来た。新施設の使用量については稼働率には大きく影響されない結果がでている。効率的・効果的洗車の取組は継続されている。

2019年度も引き続き効率洗車の意識を維持してゆく。

【廃棄物排出量の削減】

○産業廃棄物リサイクル率向上については、新施設への移行・RPF原料への選別強化の効果は表れてきている。反面、繁忙期の人員体制の不備から一時選別精度が低下した。年度の終盤には廃石膏ボードのリサイクル施設がオープンしたことから選別強化し、リサイクル率向上に繋げる。

2019年度は、両施設の人員の適正配置により選別精度の維持・向上を図るとともに廃石膏ボードのリサイクル強化に努める。

【グリーン購入】

○今年度も3台購入し、目標はクリアした。

2019年度はリサイクルセンターの重機1台、ダンプ1台、ユニック1台、クラム車1台の入替が見込まれ当初計画はクリア見込み。

【軽油使用量の削減】

○今年度は9月の震災の影響もあったが、特に11月の繁忙期に作業の比率が高まったことから走行距離に対する軽油使用量は悪化した。燃費基準達成車への入替及びデジタコの有効活用により、適正速度での運行・アイドリングストップの努力はその他の月で効果に表れている。

2019年度はデジタコの有効活用による適正速度での運行を徹底し、作業の比率の高い繁忙期も計画達成出来るようにしてゆく。

【ガソリン使用量の削減】

○営業要員1名増で稼働しているが、売上高を維持できたことから目標は達成できた。引き続き効率営業に努める。

2019年度は引き続き効率営業のために使走的な訪問を改善してゆく。

【CO₂排出削減状況】

○晩翠リサイクルセンターの稼働があり総体では31年3月期実績 1,865 kg-CO₂と30年3月期実績 1,878 kg-CO₂対比 ▲13 kg-CO₂減少。

6. 法的及び当社が同意するその他要求事項

○当社の事業活動に該当する環境に関する法的及び当社が同意するその他の要求事項については、順守状況を定期的に確認し、利害関係者からの指摘、訴訟等は無かった。

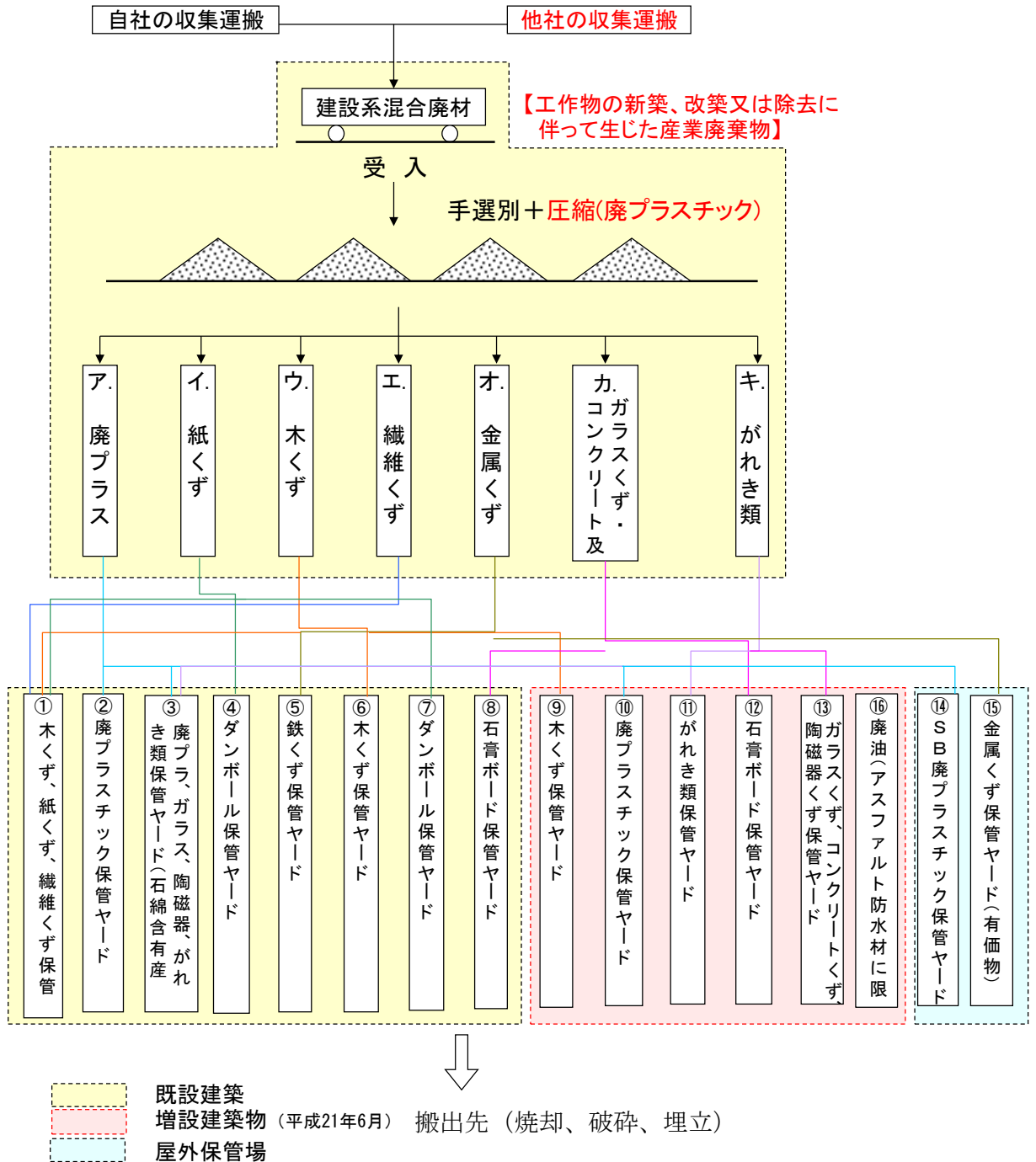
7. 2018年度活動の最高責任者の評価と今後の課題

○軽油の使用量の計画未達は作業内容による影響が主と思われ、各項目とも取組み姿勢は評価出来る。

○CO₂排出量については新施設稼働率UPという事業規模の拡大による増加要因があるものの、前年度実績比減少しており努力は認められる。

○廃石膏ボードのリサイクル施設の稼働は全体のリサイクル率向上に期待出来るものであり今後の動きを良く注視してゆく。

中間処理施設（選別）処理工程図



中間処理施設（破碎・圧縮）処理工程図（晩翠リサイクルセンター）

